

日本の近代・現代風景画にみる農村風景の特徴

風景画構成要素の描かれ方について

A Study on the Characteristic of Rural Area in the Japanese Modern-Contemporary Landscape Painting
The Expression of the Elements and Composition in Landscape Painting

宮澤鉄蔵* 鎌田元弘* 小野寺淳* 国府谷朋子*

(* : 千葉工業大学)

I 研究の背景・目的

近年我が国に農村の景観破壊を嘆く風評が市井に蔓延してきている。かつての豊かで調和を保っていた農村風景は近年好ましからざる方向に変貌しつつあるのは事実である。

本研究の動機は、画家によって作成された絵画が、現在の近代化を優先した地域開発の結果とは異なり、文化性を含んだ統合的視野にたつ整備を進めるための重要な見方を持つと考えたからである。

本研究の資料は風景画を使用するが、絵画そのものの評価を扱っていない。すでに一流として評価されている絵画を好ましい風景と解釈して使用している。資料は、我が国の現在の文化的背景を考慮して、作製時期は近代から現代かけて、地域は我が国に限定した。

本研究の解析が、そのまま景観を整備する手法として直接的な効果を持つとは考えていない。景観は視覚的意味に地域的意味を併せての統一体であるし、地域の整備には景観整備と関係しない別次元の整備目的が存在するからである。また景観整備に限ってみても、単純な視野からの結論は適当ではなく、より広い視野にもとづいた統合的見地が必要であると考えている。本研究は、景観整備の考え方の一助にすることを目的としている。

II 本研究の特徴

近年、景観上の視点から種々の研究がなされてきている。

風景画から景観を解析した既往の研究として、①風景画に描かれた要素から都市景観や地域特性の把握を試みたもの^{*-1}、②風景画と、現在の都市または別の時代の都市の景観要素と比較し、変化をとらえようとしているもの^{*-2}、③環境心理的観点から考察を行ったもの^{*-3}、④風景画における天候などについて論じたもの^{*-4}等がある。本研究では①と③を研究手法の参考としているが、近代・現代風景画を素材にして、現代の農村景観を扱った研究はない。

また、現状の風景に関する研究では評価主体を住民とする研究は多い^{*-5}。景観造成の主体者は主として住民或いは住民の意向を受けての公共団体が主であるから、重要な視点であることは間違いない。

しかし、住民が身の回りの風景について必ずしも敏感でないことも事実である。我々が現地で調査をすると、住民が地元の良い風景を見逃している状況をよく経験する。セザンヌは多くの「サン・ヴィクトール山」を描いたが、彼は地域の人達について「住民は環境を見ているが風景を見ていない」^{*-6}と言っている。セザンヌ程極端でないにせよ、専門家の観る景観評価の視点が重要であることは間違いない。

III 研究方法

(1) 研究の構成および手順

本研究では景観・風景の語句を次のように統一する。

- ・景観 視覚的意味と地域的意味とを併せ持つ総体的な空間的まとまりをいう。

- ・風景 風物光景の意味。景観の中の視覚的部分を指す。

本報の解析内容は、次の通りである。

- ① 絵画に出現する構成素材について解析する。
- ② 本研究での近景・中景・遠景の意味づけを行い、特に景観整備にあたり、環境変化の大きい近景について解析する。
- ③ 地域整備の視点からみた風景画の描画の特徴を考察する。
- ④ 本報の解析結果から景観整備について若干の提言を行う。

なお、本報は主として構成素材など物的要素からの考察を行ったものである。デフォルメ、モンタージュなど心的要素からの考察は次報で報告する予定である。

(2) 研究資料

本報では、①具象性の高い絵画であること、②近代、現代の絵画であること、③一流の作家の作品であることの条件により、研究資料として次の画集を選定した^{注1}。

・井上靖、河北倫明監修（1988）：日本風景画全集「美しい日本」全 10 巻：ぎょうせい発行^{注2}。

この資料に含まれる絵画は 625 点である。筆者らを含めての数人の討議により、第 1 次選定として農村の風景とおぼしき作品を 144 点選定した。次に第 2 次選定として解析の対象とする作品を 102 点に絞った。第 2 次選定で除外したものは、名所旧跡、公園、神社や寺院が主たるモチーフになっているもの、自然的風景が主たるモチーフになっているもの、大規模な漁港である。

また、都市との比較のために都市的風景として 111 点を選定した。

・社団法人日展編集・発行（1990 ～ 1997）：「日展図録」第 21 回～第 29 回

「美しい日本」の編集が 1988 年であり、最近数年間が対応しにくいことから、具象的絵画の代表としての日展図録を選んだ。最近 9 年間の作品（日本画、洋画の部門）の中から農村的風景 148 点、都市的風景 72 点を選定した。

選定した絵画の制作年別、地域別の内訳を表 1、2 に示す。

(3) 本研究における資料としての問題点

表 1 年代別絵画数

美しい日本	1900	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	不詳	合計
農村の風景画	2	14	8	7	8	11	21	17	10	4	102
都市的風景画	0	6	11	13	10	23	21	10	16	1	111
日展作品集	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	合計
農村の風景画	13	19	22	14	17	16	13	13	8	13	148
都市的風景画	3	7	6	12	7	9	5	6	6	11	72

(枚)

表 2 地域別絵画数

		臨海部	平野部	山間部	合計
美しい日本	農村	37	37	28	102
	都市	28	80	3	111
日展作品集	農村	32	34	82	148
	都市	14	55	3	72

(枚)

風景画を景観評価の資料として扱う場合、かなりの解析上の問題が生じる。問題点を列挙すると次のようになる。

① 風景画の取材は地域の中の特定のしかも眺望のきく場所が多く、それは必ずしも農村の一般的風景を代表していない。しかし、取材した場所は画家が風景としての興味をひいた場所であるから、農村の好ましい風景と受け取ることも出来る。

② 風景画は視覚に入る風景の全体を捉えたものではなく、絵のフレームによって限られたものになっている。フレームの問題については、資料として限界があると考えている。ただ、フレームの制限はあっても描写する対象の範囲の取捨選択は画家の意志により自由である。

③ 制作の過程でデフォルメやモンタージュは多かれ少なかれ生じる。これは画家の風景に対する願望と本研究では捉えている。しかし原景を全く留めないような大きなデフォルメやモンタージュをした絵画は、資料として適当ではないので解析から除く方法をとった。

④ 絵画では色彩が極めて重要な情報である。本研究では色彩は重要であると認識しつつも解析の主な情報として扱っていない。その理由は資料が絵画の複写であり原画の色彩が正確に判らないこと、もし原画を用意出来ても色彩は微妙であり、解析の方法を見いだすことが大変難しいことである。今後の課題としたい。ただ、大まかな色彩は判るので、副次的な判断については解析に用いている。

IV 絵画における風景の構成素材

(1) 農村と都市の比較

絵画を農村的風景、都市的風景に分けて絵画を構成する主な素材^{注3}の出現頻度を比較した(表は略)。農村的風景での特徴は、山、森・林、草地・草原、田・畑の出現率が都市的風景に比べて2倍以上の倍率になっている。逆に農村的風景で出現率の低いものは、自動車・バス、電車等の人工的な移動物や公園・広場、街路樹・並木等の人手のはいった自然的風景素材であり都市的風景の1/2以下の値を示している。

(2) 農村における地域別の比較

農村的風景を絵画で判別できる地域として、山間部、平地部、臨海部の3地域に大別し、比較した(表は略)。当然のこととして山、森・林は山間部、平地部、臨海部の順である。田・畑、庭木・屋敷林は山間部、平地部の出現率が同程度で高く、臨海部では低くなる。臨海部について特徴的なことは、人間、集落・街並み・住居、ビル・洋建築等人工的な素材が多くなることである。

V 近景の解析

(1) 近景、中景、遠景の区分とその方法

本研究では近景、中景、遠景を景観整備による影響圏の立場から次のように設定した。区分の一例を図1に示す^{注4}。

近景…身近に存在し、景観造成に当たり比較的容易に造り替えることが可能な範囲。近くの間や田畑、家、屋敷周りの植樹等がこれに相当する。

中景…土地利用で説明できる範囲。住宅地、耕地、樹園地、荒地等である。海、池等についてはやや曖昧になるが、その場所が地上であった場合に土地利用で対応できる範囲は中景として扱う。

遠景…山、海、野原など風景の自然的条件を説明している部分である。景観造成に当たり整備事業等では対応しにくい範囲である。

ただし、絵画によっては透視図的描写のようにその区分が難しいものも発生する。遠中近景の解析については、「美しい日本」110点の中から、解析対象にする絵画として90点に絞った。

なお、視覚心理学の「地」と「図」の関係は遠景、中景が「地」、近景が「地」と考えている。



高島達四郎 「富嶽」：1947より作成

図1 遠景・中景・近景の区分

中景は絵画によっては「図」と見る方がよい場合もあるが、大勢としては「地」とみる方が妥当性がある場合が多い。

(2) 近景の特徴

近景は地域整備の影響が強い範であるとの見地から、近景の描画の特徴について解析した。風景画における近景の役割として、絵画全体の中での近景の強さ(重要性)と動き(躍動感)が考えられる^{注5}。計量できる指標として、強さには近景の面積、動きには近景と中景の境界線の長さで代表させ、大まかな傾向を探った。

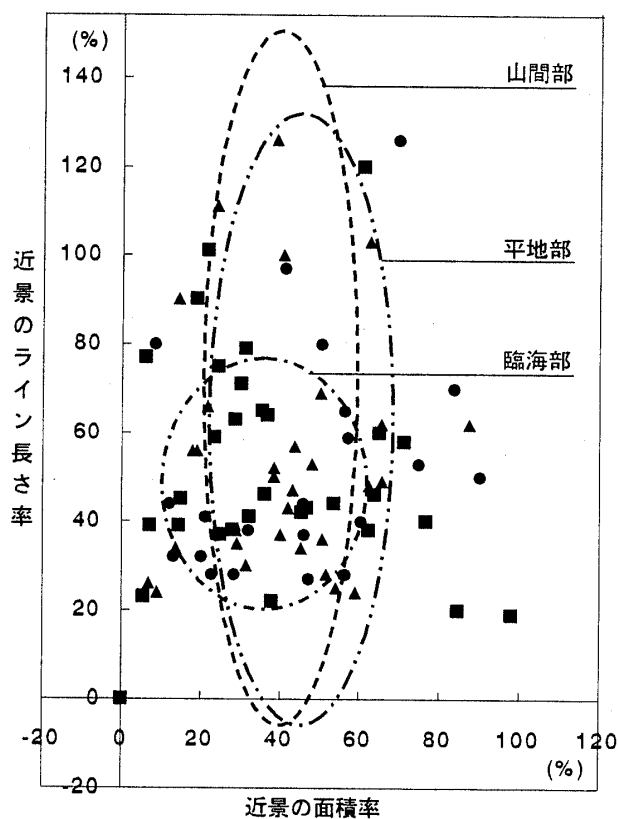
近景の面積は、近景が絵画全面積に占める割合で計測した(近景面積率と名付ける)。また、近景と中景の境界線の長さは、その境界線の長さの絵画周囲長さに対する割合で計測した(近景ライン長さ率と名付ける)。

近景面積率を横軸に近景ライン長さ率を縦軸にとり資料の絵画の数値によってプロットしたものが図2である。

面積率の頻度を地域別に分析すると、山間部と平地部では分布の形が類似しており、60～70%の範囲で頻度が多い。臨海部は30～40%と60～70%の二つの層に分かれて頻度が多くなっている。風景画の画面を空、遠景、中景、近景と単純に4等分するとそれぞれ25%となるから、資料から得られた近景面積率の数値はこれより相当高くなっている。これは風景の専門家である画家が結果として近景を重視していると考えられる。

近景ライン長さ率の頻度を地域別に分析すると、山間部、平地部は20～70%と広範囲にわたっているが臨海部は30～50%の範囲で多く分布している。

分布の状況を視覚的に把握するために、地域別に近景面積率と近景ライン長さ率の平均値と標準偏差を径にして楕円を描いたものを図中に示した。図中の楕円の形は山間部と平地部では多少の差はあってもそれ程変わらないが、臨海部では山間部と平地部に比べ横に長い楕円になる。これは殆どの臨海部の絵画では水平に横の長い海が描かれており、近景も横への広がり意識して近景ラインを短くし、近景の動きを押さえているためと解釈できる。



凡例：▲山地部 ■臨海部 ●平地部
図2 近景の面積率・ライン長さ率

VI 絵画の描画方法の特徴

(1) 素材の農村的特徴

農村風景の特徴と考えられる素材の扱い方に関する項目を討議により作成し、その出現頻度を山間部、平地部、臨海部について比較したものが表

3である。この表の結果と個々の絵画の観察からおおよそ次のようにまとめることができる³⁶⁾。

① 耕地…現状では殆どの水田が基盤整備を終わっているが、絵画では水田、畑地を基盤目のように基盤整備された風景を描いた絵画は少ない。資料として使用した絵画が基盤整備最盛期以前の作品が多いことを考慮して最近の絵について検討してみたが同様の結果になった。

② 道…道は曲がっている絵が多い。特に歩道は曲がっていて舗装されていない。直線的な道を描いた絵もないでもないが、道は途中で曲がったり或いは道の先にアイポイントがある絵になっている。今日の道路整備によく出現する直線的でそのまま風景の中へ抜けている道は殆ど描かれていない。

③ 水辺…小川、水路、池、湖など水や水辺をとりいれた風景が多い。水辺や水路の法面は自然石、土、草など自然の材料で造成された絵が描かれている。ただ、臨海部の波止場や岸壁は、コンクリート造がそのまま露出している絵が多く見られる。

また、水田がレフレクションポンドの役目をはたし、集落、樹木、山などを優雅に映し出しているものが散見された。

④ 家屋…集落内の屋根の構成は、地形や家並みの影響を受けて、全体として規則性が幾分あり、その中に個々の屋根の変化が入るという特徴がある。家屋の屋根材料や形状は集落内で統一されている場合が多い。瓦、草屋根など勾配のある屋根が多く、コンクリート造にみられるフラットな屋根は、その出現度が小さい。勾配屋根でも現在多くみられる草屋根に亜鉛鍍鉄板をかぶせた屋根は描かれていない。

外壁は一色で塗られている絵が多く、材料は絵画からは判明しにくい、現在多用されている新建材等の軽薄な外壁材料は見出せない。屋根の方が外壁に比べて風景画を構成する力が大きいことが感じられる。

⑤ 家屋の周辺…集落内の建物は高い建物のない風景の方が圧倒的に多い。高い建物の混じる風景は臨海部に少し現れる。屋敷林や敷地内外の大樹が絵画の重要なポイントになっている例が相当

表3 風景素材の描かれ方

項目		美しい日本（農村風景 臨海部ー平野部ー山間部）						日原作品集（農村風景 臨海部ー平野部ー山間部）															
		臨	%	枚数	平	%	枚数	山	%	枚数	臨	%	枚数	平	%	枚数	山	%	枚数				
基 礎 整 備	田や畑が適当に配置されている	臨	100.0	16	=	山	100.0	15	=	平	89.3	25	山	22.2	26	>	平	37.5	6	>	臨	0.0	0
	田や畑が基礎整備されている	平	3.6	1	<	臨	0.0	0	=	山	0.0	0	平	43.8	7	>	山	22.2	8	<	臨	0.0	0
	サンプル数	臨海部16枚			平野部28枚			山間部15枚			臨海部0枚			平野部16枚			山間部36枚						
農 作 業	農作業が手仕事で行われている	平	100.0	6	=	山	100.0	4	>	臨	66.7	2	山	100.0	1	>	臨	0.0	0	=	平	0.0	0
	農作業が機械で行われている	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	サンプル数	臨海部3枚			平野部6枚			山間部4枚			臨海部0枚			平野部0枚			山間部1枚						
護 岸 （ 海 ）	護岸が自然物で出来ている（海）	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	護岸が人工物で出来ている（海）	臨	17.1	16	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	20.0	6	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	護岸がされていない（海）	臨	51.1	18	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	33.3	10	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	護岸が自然物と人工物で出来ている（海）	臨	2.9	1	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	3.3	1	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	護岸が自然物と護岸されていない（海）	臨	2.9	1	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	6.7	2	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	護岸が人工物と護岸されていない（海）	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0	山	25.0	1	>	臨	13.3	4	>	平	0.0	0
	護岸が自然物と人工物と護岸されていない（海）	臨	2.9	1	>	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	サンプル数	臨海部35枚			平野部0枚			山間部0枚			臨海部30枚			平野部0枚			山間部4枚						
水 へ の 反 射	水に風景が映し出されている	平	27.8	5	>	山	18.2	2	>	臨	2.9	1	平	38.5	5	>	臨	23.3	7	>	山	21.9	7
	水に風景がやや映し出されている	平	11.1	2	>	山	9.1	1	>	臨	8.6	3	平	38.5	5	>	山	37.5	12	>	臨	10.0	3
	水に風景が映し出されていない	臨	88.6	31	>	山	54.6	6	>	平	50.0	9	臨	40.0	12	>	山	25.0	8	>	平	0.0	0
	サンプル数	臨海部35枚			平野部18枚			山間部11枚			臨海部30枚			平野部13枚			山間部32枚						
家 並	集落内の家並に規則性があり、整然としている	山	14.3	3	>	平	4.0	1	>	臨	3.3	1	平	16.7	2	>	山	9.3	5	>	臨	3.3	1
	集落内の家並に規則性が緩みあり、かつ、整然としていない	臨	56.7	17	>	平	48.0	12	>	山	47.6	10	山	37.0	20	>	平	33.3	4	>	臨	23.3	7
	集落内の家並に規則性がなく、整然としていない	平	48.0	12	>	山	38.1	8	>	臨	33.3	10	臨	70.0	21	>	山	48.2	26	>	平	41.7	5
	サンプル数	臨海部30枚			平野部25枚			山間部21枚			臨海部30枚			平野部12枚			山間部54枚						
高 い 建 物	集落内に高い建物がある	臨	13.3	4	>	山	4.8	1	>	平	4.0	1	山	9.3	5	>	平	8.3	1	>	臨	3.3	1
	集落内に高い建物がない	平	26.0	24	>	山	95.2	20	>	臨	76.7	23	臨	26.7	29	>	平	21.7	11	>	山	88.2	48
	サンプル数	臨海部30枚			平野部25枚			山間部21枚			臨海部30枚			平野部12枚			山間部54枚						
屋根形状の統一性	集落内の屋根の形に統一性がある	山	25.2	20	>	平	88.0	22	>	臨	70.0	21	臨	30.0	9	>	平	25.0	3	>	山	18.5	10
	集落内の屋根の形に統一性がない	臨	20.0	6	>	山	4.8	1	>	平	4.0	1	山	74.1	40	>	臨	66.7	20	=	平	66.7	8
	サンプル数	臨海部30枚			平野部25枚			山間部21枚			臨海部30枚			平野部12枚			山間部54枚						
屋根の素材の統一性	集落内の屋根の素材に統一性がある	平	60.0	15	>	臨	50.0	15	>	山	47.6	10	平	33.3	4	>	臨	30.0	9	>	山	9.3	5
	集落内の屋根の素材に統一性がない	臨	26.7	8	>	平	24.0	6	>	山	23.8	5	臨	33.3	10	>	山	24.1	13	>	平	16.7	2
	サンプル数	臨海部30枚			平野部25枚			山間部21枚			臨海部30枚			平野部12枚			山間部54枚						
屋 根 の 形 状	集落内の屋根の形が三角屋根である	山	100.0	21	>	平	92.0	23	>	臨	70.0	21	平	100.0	12	>	臨	83.3	25	=	山	83.3	45
	集落内の屋根の形が陸屋根である	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0
	集落内の屋根の形が三角屋根と陸屋根が混ざっている	臨	20.0	6	>	平	4.0	1	>	山	0.0	0	臨	13.3	4	>	山	11.1	6	>	平	0.0	0
	サンプル数	臨海部30枚			平野部25枚			山間部21枚			臨海部30枚			平野部12枚			山間部54枚						
道 の 曲 り	道が曲線的である	山	79.0	15	>	平	66.7	14	>	臨	65.4	17	平	56.3	9	>	山	55.6	30	>	臨	35.3	6
	道が直線的である	臨	26.9	7	>	平	19.1	4	>	山	15.8	3	臨	52.9	9	>	平	43.8	7	>	山	35.2	19
	道が曲線的・直線的であるものが混ざっている	平	14.3	3	>	臨	7.7	2	>	山	5.3	1	山	9.3	5	>	臨	5.9	1	>	平	0.0	0
	サンプル数	臨海部26枚			平野部21枚			山間部19枚			臨海部17枚			平野部16枚			山間部54枚						
道 の 舗 装	道が自然物で舗装されている	臨	0.0	0	=	平	0.0	0	=	山	0.0	0	臨	11.8	2	>	平	6.3	1	>	山	1.9	1
	道が人工物で舗装されている	臨	34.6	9	>	山	21.1	4	>	平	4.8	1	山	25.9	4	>	臨	23.5	4	>	平	0.0	0
	道が舗装されていない	平	81.0	17	>	山	68.4	3	>	臨	65.4	17	平	87.5	14	>	山	48.2	26	>	臨	29.4	5
	サンプル数	臨海部26枚			平野部21枚			山間部19枚			臨海部17枚			平野部16枚			山間部54枚						

二重下線は描画手法率が50%以上を示し、< >は描画手法率の差が2倍以上、< >は描画手法率の差が2倍未満を示す

多く存在した。屋敷周りの植栽は、自然的な植栽が多いが、地域によっては植栽の人工的な剪定が風景の特徴を造っている絵画もあった。この場合でも、環境を賤しめるような人工的な形態はとっていない。

⑥ その他の施設…描写に特徴のある施設を列挙する。

橋がよく描かれる。橋は風景の中に変化を与える。しかし、農村に描かれる橋は現代的構法をそのまま露出したような橋は少なく、単純な構造をもつ橋が多い。

商店は有る程度の賑わいをもって描かれている。人物が同時に配置されている例は多いが自動車を描いたものは極めて少ない。看板も過剰にならない程度に描かれている。過剰な装飾のある遊技場や必要以上にあくどい看板などは絵画では描かれていない。また、小都市の中心街でよくみか

ける直線的で無味乾燥な商店が立ち並ぶ風景も描かれていない。

洒落た役場やホテルが気の利いた風景づくりに効果的に用いられている例もある。しかし、風景の中に突出したような扱いでは描かれていない。

船が多く描かれている。一席の船が風景に溶け込むもの、数隻の漁船が漁村の生活を映し出しているもの等がある。巨大な観光船や漁船が描かれる例は少ない。

⑦ 農作業…農作業をする人は描かれていても農業生産施設は殆ど現れない。例外として畜産施設で牛舎、サイロは描かれている。家畜は描かれるがトラクターは描かれていない。

VII 景観造成に対する若干の視点

本研究で得られた景観造成に関する視点は、そ

のまま景観整備の目標になるとは考えていない。景観整備は広範囲な視点から決定される必要があるからである。本研究の結果として、現在、一般的に多く叫ばれている項目(空気がきれいである、自然的な風景が残っている、四季の変化が美しい等)は省略して、特徴的な視点を挙げてみると次のようになる。

- ・ 耕地の基盤整備はなるべく自然的要素を残す。
- ・ 歩く道は曲げて造る。
- ・ 水田、溜め池等のレフレクション効果は重要である。
- ・ 濠や水路の法面は自然の素材で造る。
- ・ 樹木は景観の要素として大事に扱う。
- ・ コンクリートの平らな屋根はなるべく集落をさけ、場所を考えて造る。
- ・ 農村にも全体の雰囲気壊さない程度の洒落た施設を少数だけ造る。
- ・ 装飾過剰な建物や看板は造らない。
- ・ 場所によっては環境をいじらないことも重要である。

謝 辞

本研究の一部は文部省科学研究費補助金によった。また、千葉工業大学大学院・高梨正彦、学部・大久保悦子、鈴木倫子、御園理恵、本間喜子、山田恭子、山本将史の各氏には修士・卒業論文のテーマとして研究に協力戴いた。ここに厚く謝意を表するものである。

[注]

注1) 近代・現代の風景画としての資料は膨大な数に上る。その選定には絵画の評価を伴うが、本研究は絵画の作品としての評価を行っていない。従って、すでに専門家によって良質な作品として評価されているものを取り上げた。

注2) この画集は権威ある選者によって選定された、我が国で唯一の近代・現代の風景画の画集である。

注3) 解析した主な構成素材は次の通りである。

自然的素材…緑系(山、森・林、樹木、草地・草原、街路樹・並木、庭木・屋敷林・田畑) 水系(海、河川、湖、池、水路) 土系(沿岸・岸・岬、島) 生物系(人間、動物) 雪系(積雪) 人工系素材…施設系(集落・街並・住居、ビル・洋建築、教会・社寺、蔵・倉庫、工場、駅舎、公園・広場、道路・道、橋、港、その他の建築物) 移動物系(自動車・バス、電車、船舶、その他の移動物)

注4) 樹木や農作物が近景として描かれている場合、葉のまとまりや密集した細い枝のまとまりを、ひとつの単位として捉え、面積に含めている。境界線は、それらの外周線としている。

注5) 近景の描写の状況は、土地の利用状況、家屋やその他の工作物、樹木などの形状、色及び混合のされ方など、複雑な内容がからむ。本研究ではそれらの総体として、近景の強さ、画面上の動きに注目した。また、近景の強さには近景の面積率、動きには境界線の長さで代表させたが、解析上の限界はある。

注6) 描画の特徴は事例が多いことも重要であるが、事例が少なくとも重要な事項を発見できる場合が多い。また、絵画の特徴は絵画の個々の事例を上げながら説明することが説得性があるが、紙面の都合上、概要的な記述に留めた。

[参考文献]

- *-1 鳴海邦碩(1988):『浪速百景』に描かれた近世大阪の都市景観構造に関する考察」日本都市計画学会学術研究論文集 No.23 pp.223～228
- *-2 山根正樹(1991):「広重の浮世絵『東海道五十三次』現在の景観の比較」日本建築学会学術講演梗概集F pp.107～108
- *-3 山崎正史(1986):「近世風景画にあらわれた都市景観の見方に関する研究」日本建築学会学術講演梗概集F pp.157～158
- *-4 小林亨(1984):「雨の風景に関する基礎的研究」都市計画学会 No.19 pp.193～198
- *-5 小浦久子他(1997):「日常風景のとりえ方に関する研究」日本建築学会学術講演梗概集F pp.169～170
- *-6 オーギュスタンベルグ(1989)「日本の風景・西洋の景観」理工図書
- ・日本建築学会(1996):「テキストの景観—絵画と詩歌の景観のイメージ」日本建築学会大会(近畿)
- ・荻島哲(1996):「風景画と都市景観 水・緑・道・まちなみ」理工図書

The purpose of this study is to make clear the excellent rural landscape by using Japanese modern-contemporary landscape painting. In this paper we analyzed next two points. One is about the elements and the characteristic of expression, the other is about the close range view in the landscape painting. As a result, we found the following characteristic, 1) Natural elements is pointed more compared with man-made elements. 2) The close range view is emphasized in the frame of the painting.